



Photo by John-Mark Smith on Unsplash

親密圏における自由と平等

— 見田宗介からトッド、ブルデューを經由して —

講師：奥村 隆 氏 (関西学院大学 社会学部 教授)

日時：2019年7月8日 (月) 16:50~18:20

会場：社202教室 (西宮上ヶ原キャンパス 社会学部棟2F)

※参加申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。

見田宗介は2018年の『現代社会はどこに向かうか』で、脱高度成長期の若者の意識変容として「近代家父長制家族」の解体をあげている。この家族形態は近代の根本理念である「自由と平等」を「合理化」という現実原則で封印してきたが、合理化圧力の減圧によって「近代の矛盾の解凍」が一挙に進んだ、というのだ。だが果たしてそうなのだろうか。本報告では、見田の議論を出発点に、エマニュエル・トッド『新ヨーロッパ大全』、ピエール・ブルデュー『結婚戦略』などの家族論を經由しながら、現在の親密圏のあり方を、とくにそこの「自由と平等」を軸として、再検討してみたい。